

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2011年9月)

発表日2011年11月21日(月)

～2ヶ月連続の低下。今後は足踏み状態となる見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 星野 卓也
TEL : 03-5221-4526

(単位: %)

		全産業活動指数											
		前期比		前年比		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数	
11	1-3月	▲1.9	▲0.5	▲1.4	▲0.1	▲2.0	▲2.5	0.2	▲0.4	2.7	1.6		
	4-6月	▲0.4	▲1.7	0.0	▲0.5	▲4.0	▲6.8	0.7	0.5	▲7.2	▲4.8		
	7-9月	2.0	▲0.4	1.1	▲0.1	4.3	▲2.1	▲0.1	0.5	3.8	▲2.9		
11	1月	▲0.5	1.4	▲0.1	1.1	0.0	4.6	0.0	▲0.5	2.3	1.3		
	2月	0.9	2.0	0.8	2.0	1.8	2.9	0.2	▲0.3	6.3	4.4		
	3月	▲6.4	▲4.5	▲5.9	▲3.1	▲15.5	▲13.1	▲0.1	▲0.3	▲8.6	▲1.1		
	4月	1.7	▲4.0	2.7	▲2.3	1.6	▲13.6	▲0.1	0.4	▲5.7	▲3.8		
	5月	2.0	▲1.3	0.9	▲0.2	6.2	▲5.5	1.0	0.1	3.7	▲6.0		
	6月	2.2	0.2	1.9	0.9	3.8	▲1.7	0.3	1.1	▲0.3	▲4.5		
	7月	0.4	▲0.8	▲0.2	▲0.2	0.4	▲3.0	▲0.6	1.2	0.8	▲4.5		
	8月	▲0.3	0.2	0.0	0.5	0.6	0.4	0.1	▲0.2	1.8	▲4.2		
	9月	▲0.9	▲0.8	▲0.7	▲0.4	▲3.3	▲3.3	▲0.1	0.5	2.2	▲0.3		

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

○ 9月の全産業活動指数は2ヶ月連続の低下

9月の全産業活動指数は前月比▲0.9%と、ほぼコンセンサス(同: ▲1.0%、レンジ: 同▲1.3%～▲0.5%)通りの結果となった。

内訳別にみると、鉱工業生産指数(同▲0.60%ポイント)、第3次産業活動指数(前月比寄与度▲0.47%ポイント)、公務等活動指数(同▲0.01%ポイント)はマイナス寄与、建設業活動指数(同+0.10%ポイント)はプラスに寄与した。

震災からの回復局面が一巡、鉱工業生産指数が6ヶ月ぶりに前月比マイナスに転じたことを主因として、9月の全産業活動指数は2ヶ月連続の低下となった。

○ 鉱工業生産指数、第3次産業活動指数ともに低下

9月の全産業活動指数について内訳別に見ると、鉱工業生産指数は前月比▲3.3%と6ヶ月ぶりに前月比マイナスに転じた。サプライチェーンの復旧に伴う急回復が一巡したことや、IT関連財の在庫調整が続いていることなどを背景に、鉱工業生産指数の回復ペースには明確な鈍化が見られる。

第3次産業活動指数は前月比▲0.7%となった。9月は生産や輸出の伸び悩みを背景に、卸売業や貨物運送業など企業部門が2ヶ月ぶりの低下となったほか、家計部門についても節電関連商品や薄型テレビ販売の反動減や、天候不順の影響を受けた小売業の低下等を背景に前月比マイナスとなった。

他方で、建設業活動指数は前月比+2.2%と3ヶ月連続で上昇した。震災時に延期された建設工事が徐々に再開され始めたことや、耐震補強工事の増加などが背景と見られる。10月末時点では、主要な建設鋼材であるH形鋼の在庫減少が続いており、国内での建設需要は上向きつつある。被災地での土木工事の需要もあって、建設業活動指数は今後も比較的底堅い推移が期待されよう。

○ 需要項目別では消費が2ヶ月連続の低下、投資が2ヶ月ぶりの低下

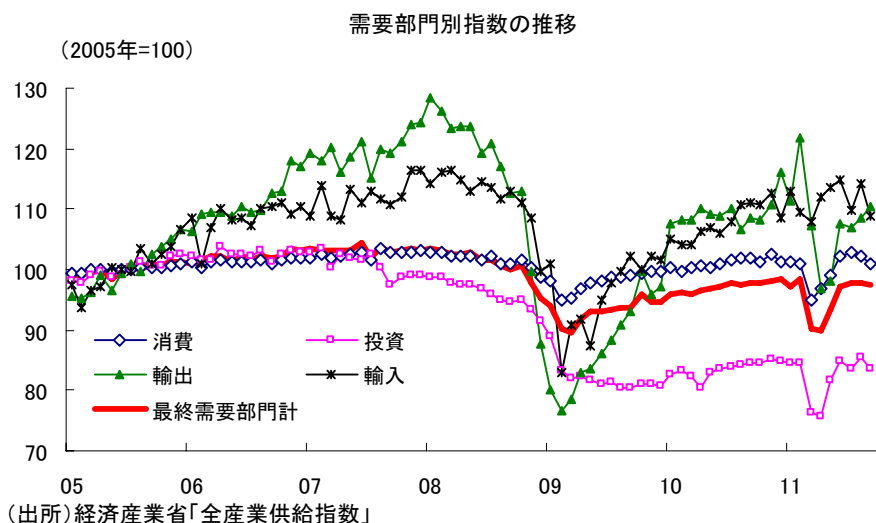
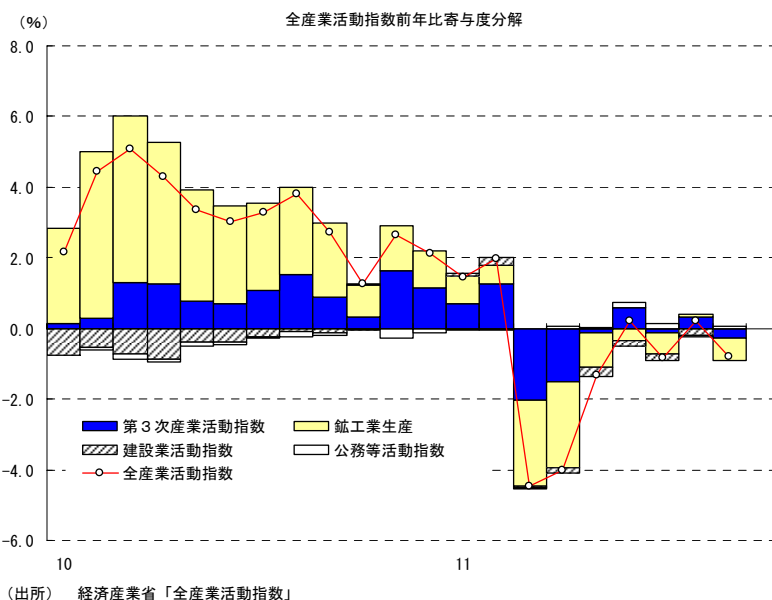
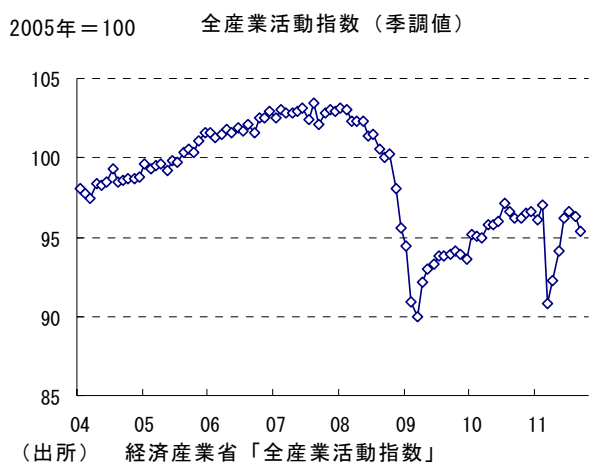
同日発表された全産業供給指数は前月比▲0.3%と低下した。需要項目別にみると、消費が同▲1.1%、投

資が同▲2.0%、輸出が同+1.7%、輸入が同▲4.6%となった。消費は、薄型テレビ販売の反動減や天候不順の影響等を背景に2ヶ月連続の低下となっている。また投資については2ヶ月ぶりの低下となった。海外経済の不透明感の強まりが、企業の投資マインドを冷やしている可能性がある。

○ 足踏み状態となる見込み

以上のように、9月の全産業活動指数は2ヶ月連続で低下した。4月から急ピッチでの回復が続いたものの、足元では頭打ち感がある。

今後の全産業活動指数を展望すると、海外経済の減速や円高による生産・輸出への悪影響が徐々に顕在化することを背景に、鉱工業生産指数や第3次産業活動指数の企業部門（卸売業など）の回復は足踏み状態となる可能性が高い。またタイの洪水については、一部の工場では復旧の目処が立っており、生産活動が長期に亘って停滞する懸念は和らぎつつある。ただし足元では自動車産業などが減産を余儀なくされており、10、11月の生産は押し下げられることとなろう。これらが重石となることで、今後の全産業活動指数は足踏み状態となる公算が大きい。四半期ベースでも10-12月期の伸びは7-9月期に比して明確に鈍化することとなろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。